

## 博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	看護学分野
学籍番号		院生氏名	松坂 由香里
通学キャンパス			
論文題目	行政保健師の家族支援実践力尺度の開発 —母子保健における実証的検討—		
審査結果(枠で囲む)	合格 <span style="margin-left: 200px;">不合格</span>		
<p>&lt;審査結果の要旨&gt;</p> <p>1. 主論文について</p> <p>1) 本研究は、副論文として開発した家族支援実践力尺度(7因子78項目)の母子保健分野における実証研究である。母子保健分野における家族支援実践力尺度の信頼性・妥当性を再確認すること、家族支援実践力の実態とその関連要因を明らかにすることを目的とした。対象は、人口5万人以上の全国743市町村の母子保健業務経験1年以上の行政保健師1,468名で、質問紙調査を実施した(回収数520名)。調査内容は、家族支援実践力、個人の要因(業務経験、学習経験、意欲等)、職場の要因(職場の特徴、教育・支援の機会、リフレクションの機会等)である。結果として、家族支援実践力尺度はCronbach's <math>\alpha</math>係数の算出により内的整合性が確認された。この尺度による対象者の家族支援実践力の実態を7件法により得点を算出し、「支援が必要な家族の発見」「家族理解のための情報収集」の平均得点が高く、「地区活動をベースにした家族支援」「家族支援チームの形成」「家族支援の評価」の得点が低い傾向にあることを明らかにした。家族支援実践力に関連する要因は、各因子の平均点および尺度全体の平均点を従属変数とし、家族支援実践力に関連する項目を独立変数として重回帰分析を行い、①保健師としての経験、②学習経験や自身の意欲・取り組み等の個人要因、③職場の環境・サポート体制の組織要因の3要因が関連していることを明らかにした。</p> <p>2) 本研究の実施にあたっては、本学の倫理委員会の承認を得て実施されており適切な倫理的配慮がなされていた。論文構成、文献の引用についても適切である。</p> <p>3) 知見の新規性と価値：行政保健師の実践力を強化していくために家族支援は必要不可欠だが、家族支援実践力を評価するツールや実態を明らかにした先行研究は見当たらない。本研究により、信頼性・妥当性を再確認した家族支援実践力尺度は、母子保健領域だけでなくあらゆる分野に活用可能性があり、その点で新規性がある。また、家族支援実践力の実態と関連する要因を明らかにしたことは、保健師個人の実践力評価の指標となるだけでなく、組織として強化すべき内容の把握と実践力向上に向けたサポート体制の構築などへの活用可能性がある点で、家族支援実践力向上に貢献する研究として高く評価できる。</p> <p>2. 審査経過</p> <p>12月12日に初回審査を行い、口頭試問においては適切に応答したが図表や分析対象の説明、文献の表記方法などについて修正が求められた。12月26日に2回目の審査を実施、おおむね適切に修正されたが一部文書表現や文献リストの表記方法について再度修正を求めた。1月9日に再提出され、適切に修正がなされたことを確認した。</p> <p>3. 口頭試問の結果</p> <p>口頭試験においては、審査員の質問に対し誠実かつ適切に応答した。</p> <p>4. 以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士(看護学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	<p>主 査 標 美奈子</p> <p>副 査 岡崎 美智子</p> <p>副 査 畦上 恭彦</p>		